

# 1. 公衆衛生情報の解析提供

疫学情報部門

## 1) 京都市感染症情報センター業務

### (1) 概要

本市における感染症発生動向調査事業は、昭和57年4月から24感染症を対象に開始され、コンピュータ・オンラインシステムの導入(昭和62年4月)、対象感染症の増加(順次40感染症まで)、京都市週報の発行など、その充実を図りながら、感染症の発生状況の把握と関係医療機関及び行政機関への情報提供を行い感染症の拡大防止に備えてきた。

平成11年4月には、感染症の発生を予防し、及びそのまん延の防止を図り、もって公衆衛生の向上及び増進を図ることを目的として「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(以下「感染症法」という。)が施行された。これに伴い、感染症情報(患者情報と検査情報)を全国規模で迅速に収集・分析・提供・公開するためのコンピュータ・オンラインシステムの再構築、積極的な疫学調査(感染症の発生の状況、動向及び原因の調査)の実施など、その体制の充実・強化が図られた。本市においても、地方感染症情報センター機能を担う「京都市感染症情報センター(感染症部門)」を衛生公害研究所に設置し、コンピュータ・オンラインシステムを新たに再構築した。

また、「感染症法」が平成15年11月に改正され、報告の対象とされている感染症が一類から五類に再分類され、全数把握対象感染症58と定点把握対象感染症28の計86感染症(表1-1)となった。全数把握対象感染症は診断した医師から、また定点把握対象感染症は患者定点(表1-2)に指定された市内の133医療機関から保健所を通じ国に報告されることになっている。また、病原体定点としては3医療機関が指定されている。

### (2) 患者情報・検査情報の収集及び解析

感染症発生動向調査事業実施体制とコンピュータ・オンラインシステム

感染症発生動向調査事業実施体制の概要を図1-1に示す。

市内の医療機関から報告された患者情報は各保健所から、また病原体検査(当所微生物部門及び臨床部門が担当)の情報は衛生公害研究所から、それぞれオンラインシステムにより、中央感染症情報センター(国)に送信されている。

コンピュータ・オンラインシステムのうち、厚生労働行

政総合情報システム(WISH)は、国の感染症情報センターと本市の感染症情報センター(衛生公害研究所)・地域医療課・保健所を接続しており、京都市情報の送信と全国情報の受信に使用している。また、外付けオンラインシステムは、衛生公害研究所と地域医療課を接続しており、相互の情報交換に使用している。

機器構成と通信内容等を表1-3に示す。

### データの収集

受信した感染症情報のうち、患者情報は感染症発生動向調査システム(Ver3.B0)のデータベースに、検査情報は感染症検査情報オンラインシステム(Ver4.72)のデータベースに取り込み、その他の関連情報は接続コンピュータのハードディスクに保存している。

### データの集計・解析

表1-4に示すように、データベースから取り出した患者情報データを、Excel VBAマクロにより作成した集計プログラムを使用して集計し、行政区別感染症別報告数・定点当たり報告数などの基本集計表を作成している。

#### a. 週報、月報及び行政区別感染症情報

定型部分は、基本集計表のデータを使用して更新している。コメント文、トピックスなど定型外の部分はその都度作成している。

#### b. ホームページ上の感染症発生動向調査情報

基本集計表のデータから年推移のグラフ等を作成、HTMLファイルに変換し、衛生公害研究所のホームページに掲載している。

#### c. 事業実施報告書

基本集計表から年間の集計データを作成し、過去8年と比較した図表等を作成している。コメント文など定型外の部分は別途作成している。更に、報告書の事業編をPDFファイルに変換し、衛生公害研究所のホームページに掲載している。

### (3) 提供情報の内容と提供先

#### 週報

A4版6ページで構成し、毎週発行しており、1ページ目には全数報告感染症の概要、上位定点報告感染症の報告数、検出された病原体の概要、コメント、2ページ目にはインフルエンザまたは腸管出血性大腸菌感染症及び上位定点報告感染症の発生状況、3ページ目には最近流行している感染症のトピックス、4ページ目には行政区・感染症別

表 1 - 1 京都市結核・感染症発生動向調査事業の対象感染症

1 全数把握の一類、二類、三類感染症

感染症の種類	疾病名	対象となる者の状態	
一類感染症	(1) エボラ出血熱	患者 疑似症患者 無症状病原体保有者	
	(2) クリミア・コンゴ出血熱		
	(3) 重症急性呼吸器症候群 (病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る)		
	(4) 痘そう		
	(5) ベスト		
	(6) マールブルグ病		
	(7) ラッサ熱		
二類感染症	(8) コレラ		
	(9) 細菌性赤痢		
	(10) 腸チフス		
	(11) パラチフス		
	(12) 急性灰白髄炎		患者 無症状病原体保有者
	(13) ジフテリア		
三類感染症	(14) 腸管出血性大腸菌感染症		

2 全数把握の四類感染症

(15) E型肝炎	(30) デング熱
(16) ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)	(31) ニパウイルス感染症
(17) A型肝炎	(32) 日本紅斑熱
(18) エキノコックス症	(33) 日本脳炎
(19) 黄熱	(34) ハンタウイルス肺炎候群
(20) オウム病	(35) Bウイルス病
(21) 回帰熱	(36) ブルセラ症
(22) Q熱	(37) 発しんチフス
(23) 狂犬病	(38) ボンリヌス症
(24) 高病原性鳥インフルエンザ	(39) マラリア
(25) コクシジオイデス症	(40) 野兔病
(26) サル痘	(41) ライム病
(27) 腎症候性出血熱	(42) リッサウイルス感染症
(28) 炭疽	(43) レジオネラ症
(29) つつが虫病	(44) レプトスピラ症

3 全数把握の五類感染症

(45) アメーバ赤痢	(52) ジアルジア症
(46) ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く)	(53) 髄膜炎菌性髄膜炎
(47) 急性脳炎(ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	(54) 先天性風しん症候群
(48) クリプトスポリジウム症	(55) 梅毒
(49) クロイツフェルト・ヤコブ病	(56) 破傷風
(50) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	(57) バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症
(51) 後天性免疫不全症候群	(58) バンコマイシン耐性腸球菌感染症

全数把握とは、すべての医療機関が届出の対象である。

4 定点把握の五類感染症

(59) RSウイルス感染症	(73) 急性出血性結膜炎
(60) 咽頭結膜熱	(74) 流行性角結膜炎
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	(75) 性器クラミジア感染症
(62) 感染性胃腸炎	(76) 性器ヘルペスウイルス感染症
(63) 水痘	(77) 尖圭コンジローマ
(64) 手足口病	(78) 淋菌感染症
(65) 伝染性紅斑	(79) クラミジア肺炎(オウム病を除く)
(66) 突発性発しん	(80) 細菌性髄膜炎
(67) 百日咳	(81) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
(68) 風しん	(82) マイコプラズマ肺炎
(69) ヘルパンギーナ	(83) 成人麻しん
(70) 麻しん(成人麻しんを除く)	(84) 無菌性髄膜炎
(71) 流行性耳下腺炎	(85) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
(72) インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)	(86) 薬剤耐性緑膿菌感染症

定点把握とは、指定届出機関が届出の対象である。

表 1 - 2 京都市結核・感染症発生動向調査事業の行政区別定点数

行政区 \ 定点	インフルエンザ	小児科	眼科	性感染症	基幹
北	7	4	1	1	-
上京	5	3	1	1	-
左京	7	4	1	1	-
中京	5	3	2	2	1
東山	3	2	-	1	-
山科	7	4	1	1	-
下京	3	2	-	1	-
南	5	3	-	1	-
右京	8	5	1	1	-
伏見	11	7	2	2	-
西京	7	4	1	1	-
合計	68	41	10	13	1

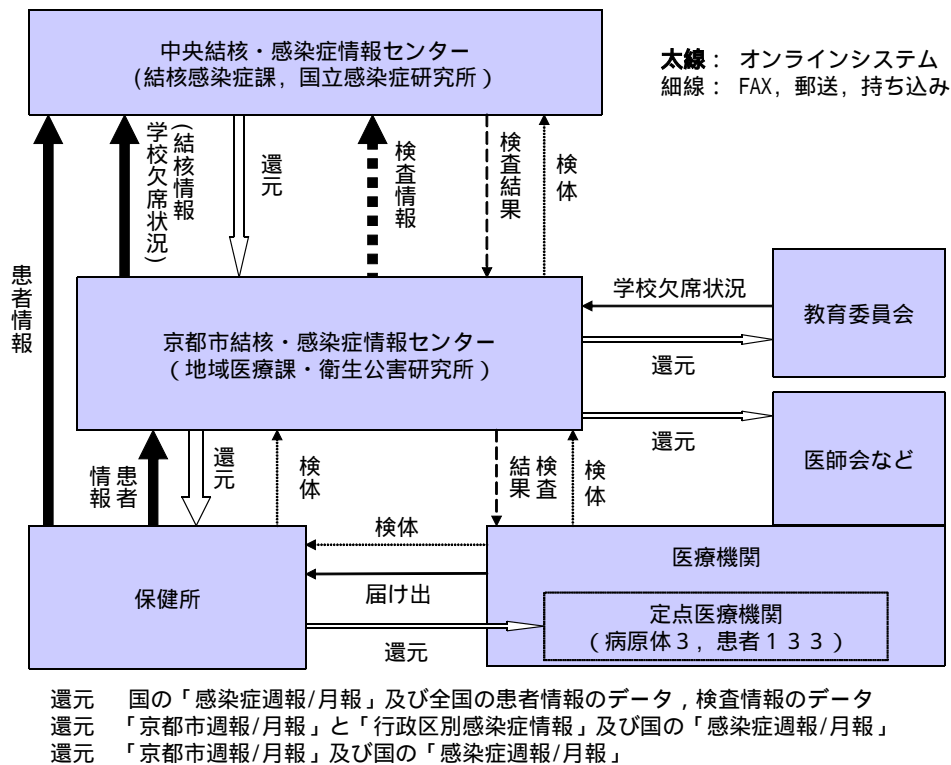


図 1 - 1 京都市結核・感染症発生動向調査事業実施体制

表 1 - 3 コンピュータオンラインシステムと通信内容

オンラインシステムと通信先	接続コンピュータ	通信回線	通信ソフト及び通信内容
厚生労働行政総合情報システム(WISH) (国立感染症研究所感染症情報センター)	PC-MY28YGDTE5BD (NEC製) (OS:Windows 2000)	ISDN (ターミナルアダプタ:Aterm IT42)	Internet Explorer Ver 6.0 全国患者情報の受信
	MATE NX MA10T (NEC製) (OS:Windows 98)	アナログ (モデム: Fax Modem 56K Data+Fax(DJP))	Internet Explorer Ver 6.0 全国検査情報の受信 FTP通信(まいと〜95) 京都市検査情報の送信
外付けオンラインシステム (京都市地域医療課)	PC-MY28YGDTE5BD (NEC製) (OS:Windows 2000)	ISDN (ターミナルアダプタ:Aterm IT42)	FFFTP Ver 1.92 京都市患者情報の受信 「京都市週報」等の送信

表 1 - 4 患者情報データの基本集計表一覧

京都市週報データ	元データ	京都市週単位定点報告感染症の定点別年齢階級別データ(CSV形式)
	集計表	T3201表(行政区別感染症別報告数・定点当たり報告数), T3202表(年齢階級別感染症別報告数・定点当たり報告数), T3203表(週別感染症別報告数・定点当たり報告数(6週分))
全国週報データ	元データ	全国及び京都府の全数及び週単位定点報告感染症の集計結果(CSV形式)
	集計表	T3101表(都道府県別全数報告感染症別報告数), T3102表(都道府県別定点報告感染症別報告数・定点当たり報告数), 他14表 T3109表(京都府保健所別全数報告感染症別報告数), T3110表(京都府保健所別定点報告感染症別報告数・定点当たり報告数)
京都市月報データ	元データ	京都市月単位定点報告感染症の定点別年齢階級別データ(CSV形式)
	集計表	T3205表(行政区別感染症別報告数・定点当たり報告数), T3206表(年齢階級別感染症別報告数・定点当たり報告数), T3207表(昨年及び今年の月別感染症別報告数・定点当たり報告数)
全国月報データ	元データ	全国の月単位定点報告感染症の集計結果(CSV形式)
	集計表	T3121表(都道府県別感染症別報告数・定点当たり報告数), T3122表(年齢階級別感染症別報告数・定点当たり報告数), 他6表

(報告数・定点当たり報告数), 5 ページ目には年齢階級・感染症別(報告数・定点当たり報告数), 6 ページ目には今週及び過去 5 週分の感染症別(報告数・定点当たり報告数)を掲載している。1 ページ及び 2 ページの抜粋の一例を図 1 - 2 に示す(次ページ)。

また, 月末の週の週報には, まとめとして該当月に報告のあった全数報告感染症及び検出された病原体の概要, 全数報告感染症の発生状況一覧及び検出された病原体詳細情報一覧の 3 ページを加えている。

#### 月報

A 4 版 3 ページで構成し, 月 1 回発行しており, 性感染症 4 疾患と薬剤耐性菌感染症 3 疾患の発生状況とコメント, 行政区・感染症別(報告数・定点当たり報告数), 年齢階級・感染症別(報告数・定点当たり報告数)を掲載している。

「週報」及び「月報」は地域医療課を通じて, 関係医療機関及び行政機関へ提供している。

#### 行政区別感染症情報

A 4 版 1 ページで構成し, 月 1 回発行しており, 定点報告感染症発生状況と定点医療機関からの報告数について, 地域の特徴が分かるように一覧表にし, 地域医療課を通じ

て各保健所に提供している。

#### ホームページの感染症発生動向調査情報

全数把握感染症の月別発生状況, 週毎の定点報告感染症発生状況(年齢別発生数, 週別推移, 上位感染症の発生数, インフルエンザウイルス検出情報), 腸管出血性大腸菌感染症発生状況(月別発生者数, 菌型別発生者数, 年齢別発生者数)などを当研究所のホームページ(<http://www.city.kyoto.jp/hokenfukushi/eikouken/>)に掲載し, 医療関係者及び市民に提供している。

#### 事業実施報告書

毎年, 地域医療課及び当所微生物部門と協働で作成している報告書は, 実施要綱, 実施要領, 定点医療機関名簿等の組織編, 感染症の発生状況を患者情報と検査情報について解析した事業編及び資料編の 3 部で構成されており, 定点医療機関, 京都府医師会及び関係行政機関等に配布している。更に, 事業編については, ホームページ上にも掲載している。

#### (4) 発生状況の概要

平成16年の感染症発生状況については, 表 1 - 5, 1 - 6, 1 - 7 のとおりである。

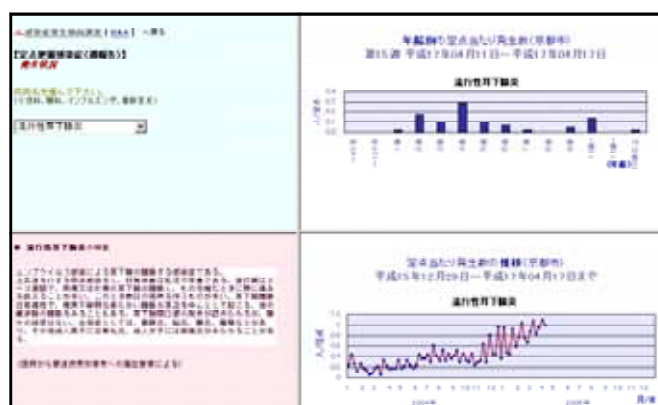


図 1 - 3 ホームページの感染症発生動向調査情報の例

# 感染症発生動向調査 京都市週報

感染症情報は京都市衛生公署研究所ホームページ  
(<http://www.city.kyoto.jp/hokenhokurshi/sikoukeza/index.html>)にも掲載しています。

全国の感染症発生動向調査週報・月報PDF版は国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ  
(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)にて掲載されており、Adobe Acrobat Reader 日本語版  
(<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep.htm>)から無料でダウンロードすることにより見ることができます。

平成17年第11週 平成17年3月14日～平成17年3月20日

(インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

今週のトピックス: <流行性耳下腺炎>

## ◆ 全数報告の感染症

☆ 二類感染症:腸チフス 1例

○性・年齢:男29歳, 症状:発熱(38.0℃)・肝機能異常,  
推定感染地域:インド, 推定感染経路:経口感染

## ◆ 定点報告の主な感染症

☆ インフルエンザ定点の感染症	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	17.57	1195
☆ 小児科定点の感染症	定点当たり報告数	報告数
① 感染性胃腸炎	5.88	241
② 水痘	1.66	68
③ 流行性耳下腺炎	1.07	44
④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.54	22
⑤ 突発性発しん	0.34	14
☆ 眼科定点の感染症	定点当たり報告数	報告数
流行性角結膜炎	0.10	1

## ◆ 病原体情報(第11週刊明分)

臨床診断名(採取週)	検出病原体	報告数
腸管出血性大腸菌感染症(第9週)	O157:H7(VT1&VT2)	1
かぜ症候群(第8週, 第9週)	インフルエンザウイルスB型	2
感染性胃腸炎(第8週)	A群ロタウイルス	2

## ◆ 今週のコメント

インフルエンザの定点当たり報告数は17.57(報告数1195例)で, 第9週(39.15)をピークに顕著に減少しています。全国も同様の傾向です。本市ではAH3型の後, B型のインフルエンザウイルスが検出されています。

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は5.88で, 第6週以降過去5年平均値を下回る値となっており, 横ばい傾向で推移しています。

水痘の定点当たり報告数は1.66で, 第6週以降過去5年平均値を上回る値で推移しています。年齢階級別では1歳～7歳が83.8%を占めています。

流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は1.07で, 第10週, 第11週は過去5年平均値を上回っています。詳細はトピックスに掲載しています。

(注:京都市のデータは:平成17年3月29日現在報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。)

## 主な感染症(小児科・眼科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

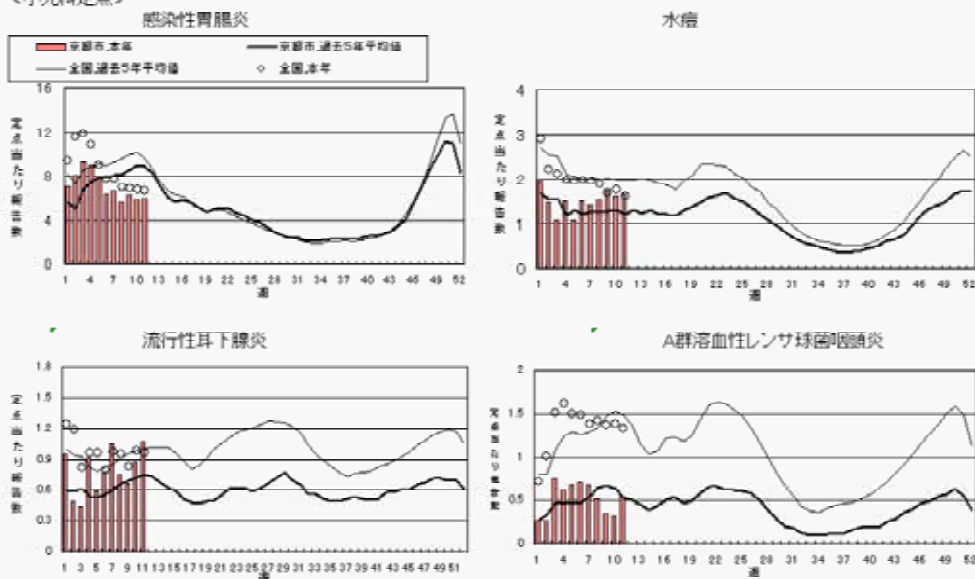


図1-2 「週報」1ページ目と2ページ目の抜粋

表 1 - 5 全数把握感染症の月別報告数（平成16年1月～12月）

全数把握対象感染症		合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
二類	細菌性赤痢	9	-	1	2	-	1	-	1	1	3	-	-	-
	ソンネ	7		1	2				1	1	2			
	フレキシネル	2					1				1			
	腸チフス	3				1						1		1
	パラチフス	3			1	2								
三類	腸管出血性大腸菌感染症	48	1	-	-	1	1	12	8	17	5	1	1	1
	O 26	2								2				
	O 121	4							1	3				
	O 157	42	1			1	1	12	7	12	5	1	1	1
	Q熱	1		1										
四類	デング熱	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	デング熱	1								1				
	マラリア	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	熱帯熱	1										1		
	レジオネラ症	1									1			
五類	アメーバ赤痢	18	1		2		1	4	4	3	1	1	1	
	ウイルス性肝炎	5	-	-	2	-	-	1	-	-	1	-	1	-
	B型	3			1						1		1	
	C型	2			1		1							
	クロイツフェルト・ヤコブ病	4		2				1				1		
	後天性免疫不全症候群	21	-	3	-	1	1	-	3	5	-	4	2	2
	無症候性キャリア	16		3			1		3	3		4	1	1
	AIDS	2								2				
	その他	3				1							1	1
	梅毒	11	-	1	-	1	-	2	3	3	-	-	1	-
	早期顕症梅毒	6		1				1	3				1	
晩期顕症梅毒	3				1				2					
無症候梅毒	2						1		1					
破傷風	1									1				
五類感染症 合計	60	1	6	4	2	2	8	10	11	3	6	5	2	

表1-6 定点把握五類感染症の月別報告数(平成16年1月~12月)

月	インフルエンザ定点		小児科定点											
	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん(成人麻しんを除く)	流行性耳下腺炎
定点数	68	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41
1月	3,060	12	14	108	1,400	408	13	28	77	-	2	2	1	55
2月	4,789	2	-	136	1,520	285	8	18	77	2	5	1	4	21
3月	357	-	8	206	2,163	228	5	42	110	2	8	12	1	43
4月	14	-	3	183	1,149	186	6	49	90	-	19	25	2	37
5月	6	-	9	175	1,069	236	27	55	113	6	37	191	1	49
6月	-	-	22	112	662	223	74	53	98	2	22	291	10	58
7月	-	-	56	42	431	88	171	44	97	4	1	277	2	72
8月	-	-	31	22	543	94	218	37	101	8	2	112	-	81
9月	-	-	23	27	432	44	116	8	96	3	1	26	-	69
10月	-	2	1	46	405	54	207	16	99	-	1	22	-	55
11月	11	2	5	78	998	154	264	9	101	3	1	11	-	96
12月	23	19	16	69	1,863	235	114	8	71	2	-	-	-	92
合計	8,260	37	188	1,204	12,635	2,235	1,223	367	1,130	32	99	970	21	728

月	眼科定点		性感染症定点				基幹定点							
	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	性器クラミジア感染症	性器ヘルペスウイルス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	成人麻しん	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	薬剤耐性緑膿菌感染症
定点数	10	10	13	13	13	13	1	1	1	1	1	1	1	1
1月	-	14	31	15	1	14	-	-	4	-	-	1	-	-
2月	-	19	21	14	-	12	-	-	1	-	-	-	-	-
3月	2	27	32	9	3	10	-	-	-	-	-	-	-	-
4月	2	25	28	12	2	10	-	-	-	-	-	-	-	-
5月	-	26	27	7	2	12	-	-	-	-	-	-	-	-
6月	-	11	20	12	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-
7月	1	26	25	10	1	9	-	-	-	-	-	-	-	-
8月	1	30	23	14	3	4	-	-	-	-	-	-	-	-
9月	1	70	24	15	4	12	-	-	-	-	-	-	-	-
10月	1	25	28	13	2	4	-	-	-	-	-	1	-	-
11月	-	28	24	13	1	6	-	-	-	-	-	-	-	-
12月	-	12	28	9	4	3	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	8	313	311	143	25	99	-	-	5	-	-	2	-	-

表1-7 平成16年 行政区別 定点当たり報告数(定点把握対象五類感染症)

感染症名 行政区	インフルエンザ <sup>1</sup> 定点	小児科定点												
	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん(成人麻しんを除く)	流行性耳下腺炎
北	97.57	1.75	1.25	11.75	153.00	43.00	18.75	7.25	8.00	0.50	0.75	18.50	-	8.25
上京	89.60	0.33	2.33	10.67	137.33	34.33	24.67	13.67	16.67	-	0.67	12.33	-	10.67
左京	60.57	0.50	2.00	29.75	221.00	56.00	21.25	10.00	18.00	2.00	2.25	17.50	1.75	16.00
中京	150.00	4.33	9.67	21.67	401.33	83.00	38.67	10.00	39.67	2.33	15.00	55.00	0.33	43.33
東山	344.00	5.50	2.00	4.50	690.00	90.50	32.00	4.00	35.00	2.00	0.50	16.00	1.50	3.50
山科	129.43	0.25	4.75	10.25	191.75	49.75	29.75	7.00	24.25	0.50	-	27.00	0.25	9.75
下京	50.33	-	-	1.50	46.00	32.00	20.50	5.00	12.00	-	0.50	15.00	-	12.00
南	234.40	0.33	6.67	100.00	674.00	99.33	100.33	10.00	39.67	0.33	1.67	78.67	-	29.33
右京	80.13	-	5.20	10.60	271.40	33.80	20.80	8.40	32.00	-	2.80	14.60	0.40	12.40
伏見	50.55	-	3.00	10.71	169.43	30.43	9.14	2.14	20.71	0.57	2.29	8.43	0.86	9.00
西京	213.86	0.25	12.25	115.00	679.75	90.75	45.00	23.50	60.50	1.00	0.75	21.50	0.25	46.50
全体	121.47	0.90	4.59	29.37	308.17	54.51	29.83	8.95	27.56	0.78	2.41	23.66	0.51	17.76

感染症名 行政区	眼科定点		性感染症定点				基幹定点							
	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	性器クラミジア感染症	性器ヘルペスウイルス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	成人麻しん	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	薬剤耐性緑膿菌感染症
北	3.00	11.00	6.00	8.00	1.00	2.00								
上京	-	-	5.00	4.00	-	4.00								
左京	-	20.00	9.00	2.00	-	4.00								
中京	-	20.50	3.00	2.00	-	1.00	-	-	5.00	-	-	2.00	-	-
東山			73.00	11.00	5.00	18.00								
山科	-	61.00	18.00	5.00	1.00	-								
下京			131.00	20.00	-	57.00								
南			27.00	42.00	5.00	5.00								
右京	-	101.00	-	9.00	-	-								
伏見	2.50	33.00	10.00	14.00	1.50	3.50								
西京	-	13.00	16.00	10.00	10.00	-								
全体	0.80	31.30	23.92	11.00	1.92	7.62	-	-	5.00	-	-	2.00	-	-



## 2) その他の公衆衛生に係るデータの解析

### (1) 平成13年国民生活基礎調査(京都市分データ)の解析

#### 目的

国民生活基礎調査は、国民の保健、医療、福祉、所得など国民生活の基礎的事項を調査し、厚生行政の企画及び運営に必要な基礎資料を得ることを目的として、国により実施されているものであり、昭和61年を初年として3年ごとに大規模な調査が、中間の各年は追加調査が実施されている。

平成13年に実施された大規模調査の結果については、京都市保健福祉局保健福祉総務課を通じて、国から「世帯編」及び「健康編」の京都市分データの還元を受け、京都市民の健康状態などについて解析を行った。

#### 調査対象

国民生活基礎調査は、全国の世帯及び世帯員を対象とし、世帯票及び健康票については、平成7年国勢調査区から層化無作為抽出した5,240地区内の全ての世帯(約28万世帯)及び世帯員(約78万人)を客体としている。

そのうち、京都市分は2,327世帯、5,598人であった。

#### 調査実施日

平成13年6月7日(木)

#### 調査項目

##### a. 世帯票

世帯主との続柄、性、出生年月、配偶者の有無、医療保険加入状況、就業の状況、公的年金の加入状況、乳幼児の日中における保育、住居の状況、平成13年5月中の家計支出額の状況 など

##### b. 健康票

入院・入所の状況、自覚症状、通院・通所の状況、日常生活への影響、悩みやストレスの状況、健康診断等の受診状況、健康の維持・増進のために日頃から実行している事柄 など

#### 調査方法

世帯票については、調査員が世帯を訪問し、面接聞き取りの上、調査票に記入する方法により行われた。健康票については、あらかじめ調査員が配布した調査票に世帯員自らが記入し、後日、調査員が回収する方法により行われた。

#### 集計方法

入手した京都市分データ(MO 1枚 固定長フィールド形式テキストファイル)をMicrosoft Accessに取り込み集計を行った。計算及び作表には、Microsoft Excelを使用した。

#### 集計及び取りまとめ

世帯では、世帯・世帯員、住居・家計支出、公的年金・恩給等について、健康では、世帯員の健康状況(有訴者の状況、通院者の状況、日常生活への影響、健康状態、健康意識、悩みやストレスの状況、健康診断等の受診状況)等について、集計、解析を行い、グラフ、表、コメントを付し、平成16年3月に報告書「平成13年 国民生活基礎調査 京都市の概況」を作成した。さらに、平成16年度は、「高齢者(65歳以上のいる世帯)」と「児童のいる世帯」に注目し、報告書「平成13年 国民生活基礎調査 京都市の概況(特定世帯編)」を作成した。

#### [集計例1]

表1-8 特定世帯別推計値

	人員数(千人)			世帯数(千世帯)				
	入院者	通院者	有訴者	入院者	通院者	有訴者		
総数	1432.0	18.7	452.8	448.7	595.0	17.1	193.8	177.2
65歳以上の者のいる世帯	504.9	7.2	231.2	194.4	199.2	6.9	148.3	127.6
高齢者世帯	143.2	2.3	90.6	74.7	96.4	2.3	68.5	59.6
母子世帯	19.7	0.5	5.4	4.9	7.2	0.5	3.6	3.1
児童のいる世帯	538.5	6.9	127.1	139.9	130.2	6.6	75.7	74.7
手助けや見守りを要する者のいる世帯	42.0	---	27.9	28.4	36.6	---	30.4	28.4

#### [集計例2]

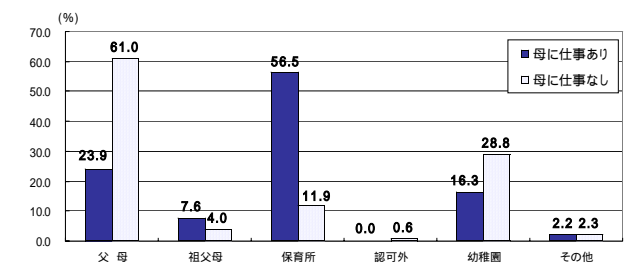


図1-4 母の仕事の有無別にみた乳幼児の日中における保育等の状況(複数回答)

### (2) 京都市母子保健に関する意識調査(アンケート)の解析

#### 目的

子育て支援を総合的かつより効果的に進めるための基礎資料とするため、乳幼児を持つ保護者に「母子保健に関する意識調査」を実施した。

#### 調査機関

保健福祉局健康増進課が企画し、事務局となって実施した。

疫学情報部門はデータの入力、集計及び解析を担当した。

#### 調査対象

生後4か月児、8か月児、1歳6か月児、3歳児健康診査時に保健所に来所した保護者

調査期間 平成16年7月~8月

集計客体数 1,761件

回収率 50.3%

結果

ほとんどの母親（82.5%）が妊娠中に何らかの心配や不安を抱えている。また、育児期間の中で特に悩みや不安が大きかった時期は育児期間が短いほど多いなどのことが明

らかとなった。

まとめ

本調査の結果については、市が策定した「新京（みやこ）・子どもいきいきプラン」の基礎資料として活用されている。

## 2. インターネットホームページによる情報提供

疫学情報部門

### 1) 目的

試験検査，調査研究，監視指導活動，感染症発生動向調査など衛生公害研究所の事業内容及び関連する公衆衛生情報を広く公開するため，平成9年10月から，京都市ホームページ内に衛生公害研究所のホームページを開設している。

平成16年度は感染症発生動向調査のホームページを一部改定した。

### 2) 内容

- (1) トピックス
- (2) 仕事内容の紹介
- (3) 腸管出血性大腸菌O157の検出方法
- (4) 感染症発生動向調査（市内分）
- (5) 腸管出血性大腸菌感染症発生状況（市内分）
- (6) 花粉情報
- (7) 消費者コーナーニュース
- (8) 京都市衛生公害研究所年報
- (9) 京都市感染症発生動向調査事業実施報告書
- (10) 生活習慣病予防指針（保健福祉局健康増進課からの依頼により作成，掲載）
- (11) 京都市結核情報（保健福祉局地域医療課からの依頼により作成，掲載）
- (12) 京都市エイズ情報（保健福祉局地域医療課からの依頼により作成，掲載）

表2 ホームページへの閲覧回数（年間総数）

内容	平成16年度
	閲覧回数
生活習慣病（成人病）予防指針	180,348
京都市衛生公害研究所年報	89,096
感染症発生動向調査（京都市内）	23,384
京都市エイズ情報	15,728
消費者コーナーニュース	14,335
花粉情報	10,640
仕事内容紹介	9,773
京都市結核情報	2,689
腸管出血性大腸菌O157検出方法	2,346
京都市感染症発生動向調査事業実施報告書	2,269
リンク集	1,640
腸管出血性大腸菌感染症発生状況（京都市内）	1,611
Contents詳細	1,269
ご意見・ご感想	1,155
トピックス	402
その他	419
総数	357,104

- (13) O157の感染予防（保健福祉局生活衛生課からの依頼により作成，掲載）
- (14) キーワード検索「ものみやぐら」（京都市ホームページにリンク）
- (15) ご意見・ご感想（電子メールの受付）
- (16) リンク集（地方衛生研究所など関連機関のホームページへのリンク）

## 3. 京都市環境情報処理システムの運用

環境部門

### 1) 目的

「京都市環境情報処理システム」は，大気汚染常時監視テレメータシステムで得られた測定結果をコンピュータによって収集，蓄積及び処理を行い，大気汚染を把握するのに必要な情報を適時に提供することによって環境行政の遂行を支援することを目的としている。

### 2) 方法

本システムは図3-1に示すとおり，大気汚染常時監視テレメータシステムから測定結果を収集するモニタリングシステム並びに収集したデータを蓄積，処理及び加工する情報処理システムの二系列からなる。

モニタリングシステムのハードウェアの構成は図8-1

(第2部, P.46)に, 情報処理システムの構成については図3-2に示すとおりである。

平成16年度には, 本庁関連課との接続方法を専用回線から京都市イントラネット(庁内LAN)に変更し, システムのセキュリティ及び通信速度の向上を図った。

### 3) 結果

平成16年度には, 以下のとおり処理を行った。

測定結果については, 大気汚染常時監視テレメータシステムで収集した1時間値を入力し, 蓄積, 整備した。

上記のデータを下記の資料などの作成に使用した。

- a. 外部へ提供のための資料(表3)
- b. 大気汚染状況の広報, 「京都市の環境」, 市会資料及び環境省への報告のための基本資料
- c. 大気測定結果のデータブック

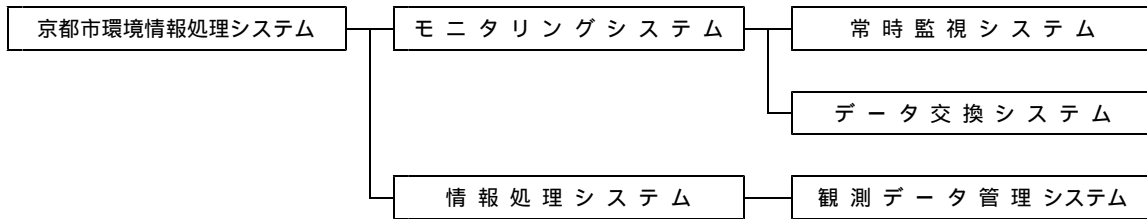


図3-1 環境情報処理システム

表3 資料提供件数

				平成16年度
環境局	環境局以外(市)	国及び府	その他	計
10	2	3	21	36

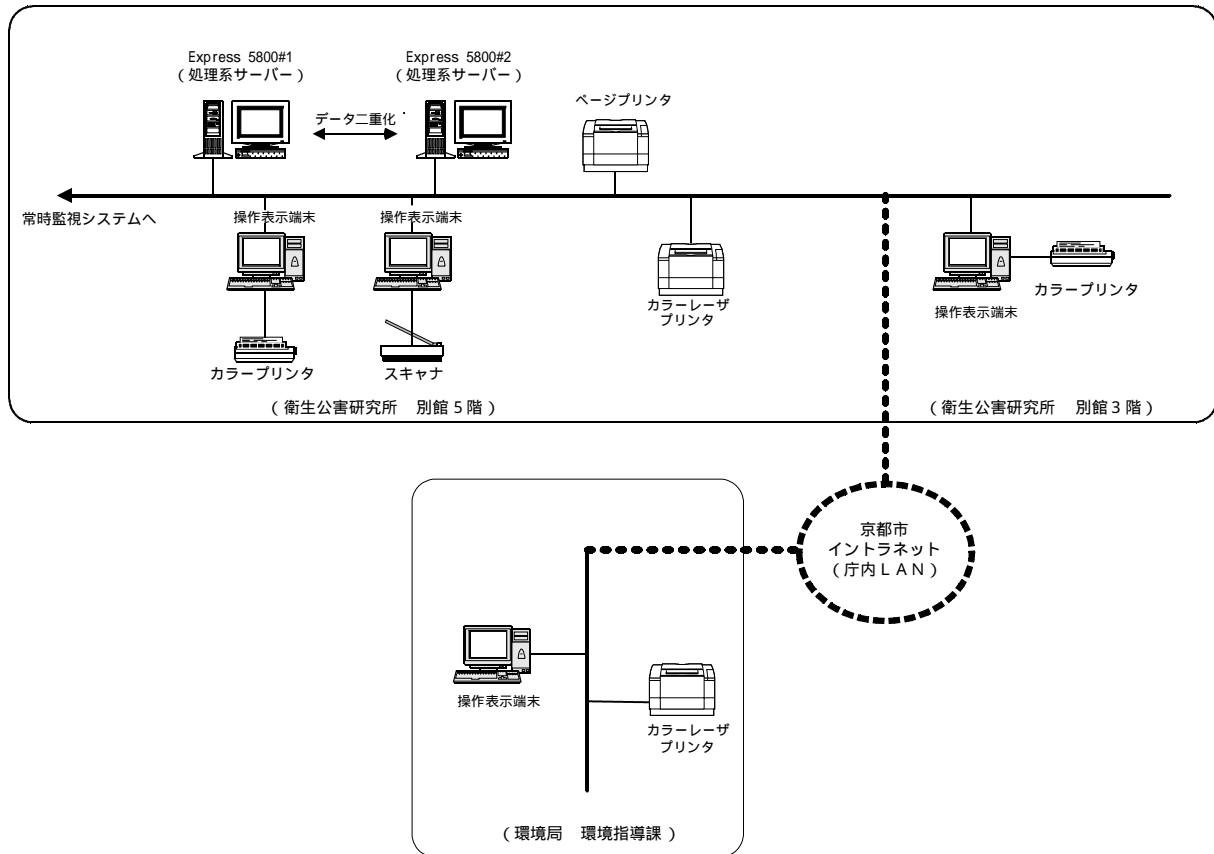


図3-2 情報処理システムの機器構成(平成16年度)

## 4 . その他の公衆衛生情報の収集提供

管理課

単行本，刊行物（学術雑誌を含む），各種報告書などを収集・収受し，分類整理して図書室に配架・保管するとともに，所内 LAN を活用し，購入雑誌の目次・新着図書等を掲載している。

平成16年度の主な購入雑誌は，次のとおりである。

### 1 ) 欧文雑誌

Abstracts on Hygiene and Communicable Diseases  
American Journal of Tropical Medicine and Hygiene  
Journal of AOAC International  
Bulletin of Environmental Contamination and Toxicology  
Journal of Chromatographic Science  
Journal of Medical Entomology  
Experimental Biology and Medicine  
Analytical Chemistry  
Journal of Air and Waste Management Association  
Environmental Science and Technology  
Water Environment and Technology

### 2 ) 邦文雑誌

ISOTOPE NEWS (アイソトープニュース)  
医学のあゆみ  
ジャパンフードサイエンス  
厚生指標  
日本医事新報  
日本公衆衛生雑誌  
水道協会雑誌  
食品衛生研究  
蛋白質 核酸 酵素  
臨床検査  
用水と廃水  
公衆衛生  
食と健康  
消費者  
暮らしの手帖  
資源環境対策  
環境技術  
水環境学会誌  
水処理技術  
環境と公害  
音響技術  
環境管理  
騒音制御  
日本音響学会誌